

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4572000687
法人名	特定非営利活動(NPO)法人 敬愛
事業所名	グループホーム なごやか
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字上江1940番地2 (電話)0983-23-4457

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成19年7月19日

【情報提供票より】(19年 6月 25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 17 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 6.2 人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

(4)利用者の概要(6月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低 74 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	坂田病院・内田医院・川南病院・江藤歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小学校に隣接し、道路に面した木の香りのする、一見普通の民家である。玄関には、職員や入居者により管理された季節の花々が咲き、小学校の運動場から小学生の様子が見え声が聞こえそうな、楽しみのある環境である。入居者一人ひとりのケアにゆっくりと、丁寧に、出来るところは役割をもっていただき、ホームの名前のなごやかそのままの家庭的な雰囲気のあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題の、運営理念の掲示については、事務所内には掲示されている。さらに入居者や家族にもわかりやすい場所の掲示について工夫してほしい。又緊急時のマニュアルや救急法の受講、成年後見人制度や地域福祉権利擁護の資料の準備、相談や苦情の公的窓口の紹介などについては、今後も取り組みをすすめてほしい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員とで自己評価について、評価・検討を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者も参加して定期的に開催されている。消防署や町の職員の協力を得て、災害時の地域の協力体制や受け入れ先が整った。消防署による防災訓練も取り入れる予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	今のところ苦情はないが、今後関係者が気軽に意見や苦情を出しやすい状況作りをしていく予定である。また外部の機関の相談窓口の担当者の案内も重要事項説明書に記載する予定である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており民生委員と交流もあり、日舞や歌・読み聞かせなどの地域のボランティアの訪問もあり入居者との交流が行なわれている。日常的に買い物出来る近くの店に、職員とともに出かけるなど地域に溶け込んでいる。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるようにとの、事業者独自の理念がつけられている。	○	理念を家族や外部からの訪問者にも見やすい場所へ掲示してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について管理者も職員も理解し、ホームの名前である「なごやか」そのものの雰囲気を持っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣のボランティア活動の受け入れや、自治会に参加するなど、地域の方々との交流に努めている。ホーム側から、地域への行事への参加など予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、外部評価の意義はよく理解している。いつでも評価内容が閲覧できるように、フロア本棚内に用意している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者や家族にも参加をさせていただいてサービスの実際、報告などを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして出席し、入居の紹介や、状況の報告や相談にもかかわり連携をとっている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の際に家族へは利用者の近況を報告し、電話連絡も実施している。状況が変化した場合も報告しており、一律に全員への報告ではなく家族の状況を考慮し個別に対応している。	○	家族の面会などホームへの訪問は、遠方の方、高齢の方など、限られているのが現状である。ホームのお便り作成や、請求書に近況便りなど折こむなど定期的な家族への報告も検討してほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談は、管理者対応窓口として、家族には、契約時に説明はしている。	○	宮崎県福祉サービス運営適正化委員会や、市町村介護保険担当窓口、宮崎県国民健康保険団体連合会など、公的な苦情相談窓口なども家族に知らせてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの各職員の支援を受けられるように極力努めている。都合により離職した職員、変わる職員に関し入居者へは動揺せぬような理由を話し考慮している。		今後お便りなどへも掲載することも検討してほしい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修の参加は、計画をたてて、参加している。月1回、ミーティングを開き勉強会などを実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック研修など、管理者の交流の機会はあるが、職員間の交流はまだ行われていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前に、見学に来ていただいたり、お試もしていただいている。お試しの1泊を2～3回していただいたケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員と一緒に調理の下準備や、掃除、洗濯物たたみなどしている。食事を共に摂ったり、折り紙をしたりして、一緒に過ごしながらか、笑ったり、喜んだり、利用者の昔話に花を咲かせたりして、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で希望は表だして把握するよう努めている。困難な希望は入居者本人を交え家族へ連絡し極力を検討するようにしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは本人、家族の希望などを聞くことで作成に反映している。職員間のミーティングなどで話し合い意見を取り入れ介護計画を作成している。	○	家族が遠方であったり、高齢であったりして、担当者会議に参加できない場合は、計画書を郵送したり、訪問したり他の方法を検討して、同意を得て捺印をしてもらう工夫をしてほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にプランの見直し変更を行なって現状に即したプランを作成している。職員間のミーティングなどで、評価や検討を行い、意見を取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の希望、状況に応じて、外出、外泊、医療、ホーム内での日常生活などの支援は随時行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各入居者の昔から利用しているかかりつけ病院を主治医としており、定期受診、健康診査など適切な医療を受けられるよう支援している。ホームの提携医療機関も確保しており支援は出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化し、常時介護が必要になれば、設備、人的問題、入居者に対する精神的に及ぼす影響などを考えると、実施は困難であるとの考えである。家族には説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの言葉かけや対応には十分配慮をしている。個人情報となりうる一切の記録等は、原則外部へは持ち出し禁止としており、情報の漏洩はないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応ホームの日課に沿って過ごしているが、希望があれば、買い物に出かけたりと、随時対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の出来る範囲で、下ごしらえや、配膳や下膳の手伝いや、食器のかたづけ、テーブル拭きなどしてもらい、利用者と職員と一緒に楽しんで食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の昼間の入浴である。希望があれば、他の時間帯や曜日にも対応できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、掃除、花壇の手入れ、手芸など、生活暦や身体状況に合わせ役割をもち、生活を送っていただいている。フロアには、利用者が作った手芸品や工作物が飾ってある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望時には近くの店に買い物に職員が付き添って出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は鍵をかけていない。声かけや見守りを実施している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網はできてはいるが、防災マニュアルが作成されていない。災害時などの受け入れ先は、地域の協力が得られることになっている。	○	緊急時のマニュアルの作成や、防災訓練、救急法の受講なども取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の個々の状態に合わせ、調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や装飾品を置き、季節感を取り入れるように工夫している。天窓があり、外からの照明も取り入れている。フロアはボランティアの踊りや歌などができる広さがあり、居心地よく過ごせる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や品物を、持ちこんだり、各自手作りの手芸品などを飾り、居心地よく過ごせるような工夫をしている。洋室と和室とあり、畳の感触も楽しめる。		